20230108 レムナント教会 1 部

福音のはじめ（マルコ 1:1-8）

神様が人間に与えられた最高のプレゼントと言いますと福音です。そして、この福音をいただいた人を信者、クリスチャンと言います。だから、神様は信者の私たちを福音を持っているが故に世の光、王である祭司として人を生かす主人公として立てていらっしゃいます。これが聖書の宣言であり、また福音をいただいている信者の私たちの祝福であり特権です。そして、この祝福が実現されるいちばん重要なプロセスの一つが、このイエス・キリストの福音が私の福音になることにあります。どのようにすればイエス・キリストの福音が私の福音になるのでしょうか。今日の聖書の箇所を通してそのことを確認して行きましょう。

1. まず第一に、イエス・キリストはすべての人生のまことの福音なんだということが分かるときに福音が私のものになります。

もう一度言います。イエス・キリストはすべての人生のまことの福音です。福音というのは喜びの知らせ、希望の知らせという意味があります。神様を離れてしまった人間は、その時から自分の意志とはまったく関係なく、生まれながらサタンの奴隷となり、滅びるしかない運命の力にとらわれて地獄に行くしかない存在になりました。なので人間自ら絶対に抜け出すことができない絶望の沼に溺れています。これを知らないので、みんなもがいて暴れて頑張っています。その結果、疲れて重荷を負うしかありません。人々は何が本当の問題なのかが分かっていないので、福音、希望、本当の喜びの幸せ、この福音でないものをもってもがいています。すべての人が努力とお金と成功に希望を見ようとしています。努力とお金は悪いものではありません。しかし、そこに希望などは一切ございません。なのに人々は努力とお金と成功に希望を見ようとしています。それは福音ではありません。そして、偶像にお願いをして宗教を求めてシャーマンの力を借りようとしているのです。そこで何とか力が与えられる場合もあります。しかし後々、よりひどい状態になってしまいます。偶像と宗教とシャーマンは福音ではありません。そして、多くの人が政治や社会福祉、また神秘的な体験、あるいは教育などに希望を見ようとしています。必要なものなのですが、それが人間の、人生の希望になるものではありません。それは福音ではありません。なのに福音ではないものをまるで福音であるかのように世の中では騒いで、そのように論理を述べているわけです。そういう中で教会も一緒に惑わされるので、イエス・キリストの福音が自分の福音に中々ならないで力を失っています。まことの希望の知らせになる福音というのは、言うまでもなくサタン悪魔が砕かれて、人がどうにもならない罪が赦され地獄の運命から解放されて神様と一緒になり、神のいのちが与えられることに希望があるわけです。そうなることを福音と言います。これが可能な言葉をキリストと言います。神様はこの福音であるキリストを約束されました。悪魔のしわざを打ち壊して、罪を贖い、地獄とのろいの運命を砕いて、神のいのちを与えられるキリストを約束されました。このキリストだけが希望であり、このキリストに福音があるわけです。そして、このキリストが実際に世に来られて十字架を背負い、死なれて 3 日目に死の力を打ち破って復活なさって天に昇られて、神の右の座に座って万軍の主となられました。それでキリストとしての救いの働きを完璧に完了されました。これ福音と言います。だからこそ福音、喜びの知らせ、希望の知らせになります。キリストが実際に世に来られて、約束に終わらずに十字架と復活によってすべてを完了なさったがゆえに福音と言うわけです。その方がイエス様なのです。だからイエス様はキリストです。これが福音なのです。ということで、私たちは何も考えずにイエス・キリスト、イエス・キリストと言うかもしれませんけれども、イエス・キリストという名前、イエス・キリストと呼ぶ時、イエス・キリストという単語、これこそが福音なのです。イエス・キリストというときに、今申し上げましたこのすべての内容が全部そこに凝縮されているわけです。キリストが実際に来られて、イエス様として十字架にかけられ復活なさって天に昇られすべてを完了なさったというメッセージがイエス・キリストという言葉の中にあるわけです。だからマルコの福音書をスタートしながら、イエス・キリストの福音のはじめと宣言しているわけです。これが希望の知らせです。なぜこれが福音なのでしょうか。これからはだれでもこのイエスの御名を呼ぶ者は救われます。ローマ 10：13、だれでもイエスの御名を呼ぶ者は救われます。だから福音と言うわけです。イエス・キリストが福音なんだということが分かったときに、福音が自分のものになるようになります。

だから、このイエス・キリストが福音なので、

2.イエス・キリストの福音が自分の、私の福音になるということは、この福音に基づいてまことの悔い改めから始まります。

このイエス・キリストの福音のはじめと言って、一番最初に登場される人物がありました。それがバプテスマのヨハネという人です。バプテスマのヨハネは、このイエス・キリストの福音の道を備えるためにナジル人として聖別されていた人です。このバプテスマのヨハネによって人々に水による洗礼を授けていました。この洗礼こそが悔い改めの洗礼です。つまりイエス・キリストの道を備える洗礼というものです。ここがイエス・キリストの福音のはじめでした。スタートがこのようになされていたということをぜひ覚えていてください。バプテスマのヨハネは人々に呼び掛けていました。イエス・キリスト、福音がもう迫ってきているので、その道を備えようじゃないか。道を整えましょう。悔い改めましょうと呼びかけて、それで川に行って水で洗礼を授けていました。悔い改めの洗礼というのはどういうことなのでしょうか。これこそがイエス・キリストの福音が私の福音になるプロセスなのです。この悔い改めこそ、イエス・キリストの福音を聞いたので、自分は本当に希望のない罪人だということを心から認めることが悔い改めの洗礼なのです。だからこそ、今まで自分があれだ、これだと思っていたことがすべて間違いだったということを認めることが悔い改めの洗礼なのです。何も本当のことを知らずにいつもだれかのせい、何かのせいにしていたこと、これは間違いですよと。そして、その結果、それが自分の心の傷として残って今まで自分を苦しめていました。そのことが傷として残っていること、傷として思っていること、それは間違いですよと認めることが悔い改めることなのです。私は何も知らずに世の流れに従って努力とお金と成功に希望を見ていました。それはとんでもない間違いでしたと心から認めること、この悔い改めの洗礼がないから、イエス・キリストの福音を聞いても私の福音にならないわけです。それが悔い改めることです。何も知らずに偶像に何かをお願いしたり、宗教を求めたり、シャーマンを通してなにかの力を借りようとしていた、それはとんでもない間違いでしたと認めることです。政治や福祉、教育などに希望を見ようとしていた、その考えは全部間違いでしたと認めることです。何かむなしいことがあり心に穴が空いているので、神秘的な何かの体験を追求していたこと、それはとんでもない間違いでしたと認めることです。今までの自分の人生を振り返ってすべてが間違いだったと認めることです。それで今までのすべてを捨てて、ただひとりイエス様に向けられるようになること。イエス様だけが残って無条件、(無条件というのは言葉を変えますと Only です) 他は何も気にしないで全部振り払って、イエス様をキリストと信じて心に受け入れることが悔い改めの洗礼です。バプテスマの役割はそこにありました。キリストだけを希望にするわけです。今まで頼りにしていて、これだ、あれれだと思っていて笑ったり泣いたりしていたそのすべてがもう恥ずかしいよ、とんでもないことだったと認めることです。率直に素直に認めてイエス・キリストだけが残ることです。水でそのすべてを洗い流しイエス・キリストだけが残ること、これが悔い改めです。このまことの悔い改めからイエス・キリストの福音が私の福音になる祝福が始まります。このようにしてイエス様をキリストとして信じて受け入れるときにイエス・キリストの福音が私の福音になります。イエス様を心から信じて受け入れるようになりますので。これもあれも全部引っかかってイエスも良いかなということはまだ悔い改めているわけではありません。イエス・キリストの福音が私の福音なるいちばん大事なプロセスは、バプテスマのヨハネの悔い改めの洗礼のことを思い起こしてください。そこから始められました。そこがスタートでした。そこがないのでイエス・キリストが目の前に来ていらっしゃるのに、教会に来て礼拝を捧げているにもかかわらず、イエス・キリストが私のイエス・キリストに中々ならないのです。いまだに何かのことが頭の中で黒く残っていて、いまだに怒りの感情や悲しい何かが残っていて悔い改めていないから。悔い改めることです。イエス・キリストの福音が私の福音になるときに、イエス様は私のいのちとなります。イエス・キリストを受け入れることで無条件、どのような人間でも構いません。今までどんな人間でどのように指差されていたのか、どんなに悲しい環境で暮らしていたのか一切関係なく、イエス様をキリストとして信じて受け入れた人は、イエス様がその人のいのちとなります。それを聖書はこのように宣言しています。Ⅱコリント 5：17「古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」。自分が自分だと思っている限りはまだ悔い改めていないわけです。自分は自分ではありません。古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなりました。イエス様が私のいのちです。なぜイエス様が私の

いのちにならないのでしょうか。イエス様をOnlyキリストとして受け入れていないからです。なぜ受け入れることがないのでしょうか。イエス様がなぜOnlyにならないのでしょうか。悔い改めていないからです。いまだにお母さんが悪い、お父さんが悪い、自分が悪い、だれかが悪いと思っているからなのです。いまだになにかのせい、だれかのせいにしているからです。いまだにこうなれば、ああなればと何かに希望を見ようとしているからなのです。ありません。福音は世の中にありません。どんなにすごいものでも良いものでも福音にはなりません。キリストだけなのです。イエス様がそのキリストです。イエス・キリストとこの言葉を唱えるたびに、ものすごい福音の光が輝くようになります。これこそが福音なのです。キリストと言ってももちろん福音でしょうけれども、イエス・キリストというときに。ヨハネの福音書までのすべてが全部そこに凝縮されるわけです。イエス・キリスト。もうキリストはキリストとして約束のキリストではなくて、もう来られて十字架にかけられて復活なさって天に昇られたまでが全部そこに入っているのです。だからイエス・キリストが分かってその御名を呼ぶ時に悪霊が逃げ去るわけです。サタンが震えるわけです。何か呪文のようにイエス・キリスト、そうすると暗やみがなんとか...というような事ではありません。イエス・キリスト。イエス様が私のいのちです。ヨハネ3：16には、このイエス・キリストを信じることで信じる人に永遠のいのちが与えられるとあります。ただのいのちではなくて、だれも何も奪うことができない永遠のいのちとなります。永遠に私の中に住まわれることになります。これが秘密の中の秘密です。結婚することは、男の人と女の人が一つになると聖書は言われています。イエス・キリストを受け入れた人は、イエス様と結婚してイエス様が新郎になるので、イエス様と私が一つになったと聖書は宣言しています。だから結婚のことをよくよく真剣に考えなさいと勧めているわけです。結婚は男女が好きになって、ただ一緒に暮らす、そういうものではありません。神様と人間が一つになる神秘の現れの一つなのです。イエスが私のいのちというのは、イエス様が私の中に、私がイエス様の中に、御座が私の中に私が御座の中にという神秘的なひとつであり、それをいのち、しかも永遠のいのちと言います。だからこそイエス様が私のいのちというのはエペソ1：3、天にある霊的すべての祝福をいただいているものになります。これを神の子どもと言います。受け入れた人々、すなわち、その名を信じた者は、神の子どもになる特権が与えられる。神の子どもとして造り変えられることです。なぜでしょうか。まだ性格は悪いままなのに。イエス様が私のいのちだから。これが悔い改めた結果です。悔い改めるということは、イエス様をキリストとして信じて受け入れることです。イエス様をキリストとして信じて受け入れるためには、今までのすべてが福音でなかったと認めない限りはありえないのではないでしょうか。そうでないままイエス様を信じたというのは、偶像崇拝や宗教やご利益を求める人々の願いと全く同じ次元の話なので何の変化もありません。イエス・キリストの福音が、いのちの福音が私の福音にならないわけです。だから古いまま、古い人間のまま、古い考え方のまま教会には通っているのに人が変わっていないのです。風が右から吹いてきたら左に倒れたり、未信者と全く何も変わっていない状態が続くようになります。なぜでしょうか。悔い改めていないから。何がそんなに気になって、何にそんなにすがり、何のために笑ったり泣いたりしているのでしょうか。何がそれほど大事なのでしょうか。世の中にあるどんなにすごいものも福音は一つもありません。宇宙にありません。つまり、私たちが影響を受けるべきものは何一つ存在しないということです。これが分かっているものはすべてちりあくたと言えるようになります。これがクリスチャンの力であり特権なのです。何もかも全部がなくなって裸になって暮らすのか。そういう意味ではありません。何も影響になれない、どうでもいい、しかし加えて与えられます。聖なる目的のために。もしそういう目的がなければなくても良いし、地上にいる理由もないわけです。生かすものは霊であり肉は無益なんだと。私があなたがたに語っているこの言葉こそが霊であり、いのちなのです。皆さんにその生かすみことばが福音としていのちとして流れて伝わっていくことを心から祈ります。それが礼拝です。牧師のお話を聞いてるわけではなくて。いま霊でありいのちであるみことばを神の霊が皆さんに注いでいらっしゃるその時が礼拝です。そのように信じて望む人が五旬節の祝福を体験するようになるでしょう。このようにイエス・キリストの福音が私の福音になるということが一番大切なプロセスなのです。どのような問題を抱えているのでしょうか。どのような霊的な問題があるのでしょうか。精神的な問題があるのでしょうか。このプロセスを通らないといけません。このプロセスさえ通れば、すべてが祝福に変えられます。まことの悔い改め、バプテスマのヨハネを通してスタートしました。悔い改めこそがスタートなのです。

3.そしてこのようにしてイエス・キリストの福音が私の福音になったとなると、これからどのようす3

な条件、環境、状況であっても構わないで、使徒 1：7-8 のみことば、その約束の上に立つようになります。

それはあなたがたは知らなくてもいいですよ。なぜでしょうか。イエス・キリストの福音が私の福音であれば、イエス様が私のいのちに間違いなければ、それはあなたがたは知らなくてもいいですよと。でも教会に通っていてもイエス・キリストの福音が私の福音になっていないので、この約束のみことばに立たずに、まるでカナンに入れないまま荒野をぐるぐる回るような状態がずっと続くわけです。なんと悔しいでしょうか。なんともったいないでしょうか。私たちの何かを求めているわけではありません。信仰によってです。それでバプテスマのヨハネも今日の 8 節で言いました。「私はあなたがたに水でバプテスマを授けましたが、その方は、あなたがたに聖霊のバプテスマをお授けになります」と。イエス・キリストの福音というのは、これからバプテスマのヨハネと違って、イエス様による聖霊のバプテスマが与えられるということがイエス・キリストの福音です。植民地であれ、奴隷であれ、刑務所の中であれ、貧乏であれ、病人であれ、無学であれ、無能であれ一切関係なく、勝利者になれる、世の光として輝ける、聖霊のバプテスマが授けられる、これを福音と言います。イエス・キリストの福音が私の福音であれば、周りがどうであれ、親がどうであれ、社会がどうであれ、それはあなたがたは知らなくてもいいです。それよりはるかに優る、そのすべてを超越できる聖霊のバプテスマの主人公なのですから。イエス様はどういう方なのでしょうか。バプテスマのヨハネが言いました。私はその方の靴の紐を解くこともできないよと。私の悔い改めの洗礼とは比べられない聖霊のバプテスマを授ける方が来られるよと。そのために復活なさって天に昇られて、いま神の右の座に座っていらっしゃいます。何のためにでしょうか。この約束のために、聖霊のバプテスマを授けるために。だからクリスチャンでありながらも何が正しいか正しくないか、なぜこんなことが起きるか、どうすりゃいいのか、自分の力で頑張る、また、世の流れに惑わされるということは、この約束を全く知らないからです。イエス・キリストの福音が私の福音であれば、聖霊のバプテスマに一直線で向かうようになるでしょう。なぜならイエス・キリストが聖霊のバプテスマを授ける方だからです。いま聖書に書いてあるでしょう。悔い改めていないから、イエス・キリストの他にまだ気になるものが多いからと。この約束です。悔い改めの洗礼によってイエス様のいのちが与えられました。それと全く同じようにそのいのちに力が与えられます。悪魔のしわざを打ち壊して勝利なさったイエスの力が、天と地のすべての権威を持つイエスの力が与えられます。しかもそれもイエスのいのちが恵みによって与えられたのと同じように、イエスの力、聖霊のバプテスマも神の賜物、プレゼント、恵みによって与えられるので、だれでもイエスを信じているものは信仰によっていただくことができるわけです。これ福音と言います。そこに人間のどうのこうのが入ったり、条件を加えたりするともはや福音ではありません。これはあなたがたからではなくて神からのプレゼントです。それは力があなたがたではなくて神にあるということを明らかに示すためです。だから力は神様にあるので、私に力がある、ないは何の悩みにもなってはいけません。聖霊のバプテスマです。性格がどうのこうのを悩まずに、そこに聖霊のバプテスマが授けられるように。2 部礼拝で元旦のメッセージを整理しますけれども、元旦のメッセージがこのメッセージです。どうのこうのと言わないで挑戦しなさいよ。聖霊のバプテスマ。言葉を変えますと御座の力が私の内側に、私の人生に現れて、その御座の祝福と力が最高の祝福であり、それで充分な祝福であり、すべてを超越できる力となるんだ。だからパウロのように私を強くしてくださる方にあってできないことは何もない。貧乏でも、金持ちでも、刑務所の中でも外でも、どんな人間でも構いませんという力強い人間になります。この約束の上に立つことです。イエス・キリストの福音が私の福音になったときに。なんと感謝でしょうか。これが勉強によって得られるのであれば、頭が悪い人間はダメでしょう。性格が良い人間が得られるとなれば、性格が悪い人間は希望がないのではないでしょうか。しかし、恵みによって信じる老若男女関係なく注がれます。表現も注がれるとあります。なぜ注がれるのでしょうか。私に満たされ、それが溢れ出ないといけないからです。皆さんの内側にある霊の状態が現れて出てしまいます。感謝しましょう。イエス・キリストの福音が私の福音になります。ここから世の光としての人生が始まります。なぜかというと、その時に使徒 1：7-8 の約束の上に立って、使徒 1：14 の祈りを捧げるようになります。祈りに専念すると。他のなにかに惑わされないで、自分の思いも感情も何もかも気にしないでこれだけです。これだけで充分だから、そして、これでないと無理なのです。不可能です。努力によって成功は手に入れられるかもしれません。しかし、人生の成功と幸せは無理です。人が変わることは修行などによってある程度変わるかもしれません。根本的に変わるというのは無理、不可能なのです。能力にもよらず、

力にもよらず、神の霊によらなければいけません。福音宣教の働きが現場でできる、できないというような表現はこれから私たちにはいらないものです。元々不可能です。しかし、聖霊が臨まれると。それ以外に方法がないし、それで充分です。この約束に絞って祈るようになり、その結果、元旦のメッセージで申し上げましたように、使徒2：1-4を皆さんが自分の内側で、自分の人生において体験できるようになります。簡単に申し上げると、五旬節の体験はいまも続いています。五旬節の体験ができるようになります。となると不可能な問題が証拠にかわり、証人として立たされることになります。

2023年、今始まったばかりですが、本当の意味で正しく改めて始められることを祈りたいと思います。どのようにでしょうか。イエス・キリストの福音が私の福音になるように。どうすればいいでしょうか。悔い改めることです。本当に悔い改めてイエス・キリストの福音が私の福音になると、使徒1：7-8のみことばに立ちます。しかもOnlyになります。どうなるか、それは私たちが気にすべきことではありません。皆さんが死ぬか生きるかは神の御手にあります。ぜひこの福音が正しく始まり、イエス・キリストの福音が私の福音になる祝福の主人公になりましょう。

（祈り）
恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日礼拝を捧げている兄弟姉妹、遠く離れて礼拝を捧げている教会の上にも、レムナントの上にも時間空間を超越する神の力により非対面が対面になる五旬節の祝福を体験できるように、イエス・キリストの福音が私の福音になる祝福を豊かに与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン